2012 年ソサイエティ大会の開催地から

～ 4,000 m の感動を体感しませんか～

富山大学 堀田裕弘
Yuukou Horita富山大学
キャンパス

本大会の会場となる富山大学五福キャンパスは、富山県のはほぼ中心の富山市にあり、既存の県内3国立大学（富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学）を再編・統合し、平成17年10月に誕生した新生の富山大学のメインキャンパスです。この統合で、人文・人間発達・経済・理・医・薬・工・芸術文化という多様な教育・研究分野を持つ8学部、和漢医薬学総合研究所、附属病院の10部局からなる総合大学となりました。富山大学は、これまでも世界の発展に寄与する基礎研究のみならず、東アジア地域をはじめ諸外国との交流を通じ、東洋と西洋の英知と科学の融合すなわち「知の東西融合」を目指し、フロンティア的学術活動に努めてきました。伝統的な薬業の蓄積を基に世界の薬草を収集した民族薬物資料館（杉谷キャンパス）などは「知の東西融合」を具象化した象徴的存在といえます。

五福キャンパスの正門から入りますと、右手にあるだ円形の白亜の建物が目に飛び込んできます。これは、黒田講堂と呼ばれており、ふるさと富山をこよなく愛し、ふるさととの高等教育の充実と富山大学の発展を願った富山市出身の黒田善太郎氏（現在のコクヨ株式会社）の全額寄附により、昭和32年11月に建てられました。今の黒田講堂は、平成元年11月、先代の遺志を受け継いだ黒田暲之助氏、黒田靖之助氏並びにコクヨ株式会社の全額寄附により新たに建設されたものです。講堂に入って右手の壁の銘板には、黒田善太郎氏が記した「天職を全うせよ」と本学学生の成長を祈る一文が刻まれており、今も本学の発展を見守っています。

五福キャンパスのメインストリートの奥にある中央図書館には、東洋の知を求め続けた小泉八雲の蔵書「ヘルン文庫」があります。この文庫は、「耳なし芳一」や「雪女」などの『怪談』で知られるラフカディオ・ハーン（Lafcadio Hearn, 1850～1904、日本に帰化して小泉八雲）の旧蔵書で、洋書2,069冊、和漢書364冊及び「日本：一つの解明」

写真3 ヘルン文庫の棚

写真4 「神国日本」原稿

（「神国日本」とも呼ばれる）の手書き原稿上下2冊約1,200枚からなります。ヘルン文庫は、学会開催中は随時見学することができます。

さて、富山は地理的に日本海側のほぼ中央に位置し、関東・関西・中京圏のいずれにも等距離という地の利を有し、豊かな自然や独特の農林水産資源にも恵まれています。中国・韓国・ロシアなどアジアを中心とした諸外国への門戸も年々拡大され、薬都富山、ものづくり富山、教育県富山の存在は全国的にも注目されています。

「環境未来都市」に選定された富山市は、LRT（次世代型路面電車システム）を核とした公共交通の整備が進んでいる全国でも先進的な都市で、北陸新幹線開業（2015年）に合わせてLRT路線の更なる延伸も計画され、世界各国から視察に訪れるほど注目を集めている地方都市です。LRTである市内環状線「セントラム」は富山市の中心市街地を循環している便利な路線です。会場から一駅先には、全国でも珍しい富山県水墨美術館もあります。

富山県が誇る3,000m級の立山連峰からの雪解け水は、谷間を縫い、大小300もの河川が網目のように流れ、富山平野のコシヒカリやチューリップを育てています。また、この水は水深1,000mの天然のいけすである富山湾に注ぎ、ホタルイカ、シロエビなど多種多様な魚を育てています。この高低差4,000mを有する富山の雄大な四季折々の自然景観と文化遺産、情緒豊かな伝統の祭りや豊穡な旬の山海の幸、パノラマ絶景などは富山に来て頂くことで体感できます。

最後に、富山で是非体感して頂きたいものは、富山湾の新鮮なネタだけで握った「富山湾鮎」です。「富山のすし」は、魚が新鮮、米が美味しい、水が美味しいから、美味しいのです！また、富山の深層水を使ったたぐさんの商品もお土産には最適です。皆さん、是非、パノラマ絶景とキトキト（新鮮）の富山へ来てみられ～。

写真1 黒田講堂（現在）

写真2 セントラム